特260
486

竹生島

昭和改訂版

内 二

始

特260
486

竹生嶋

（梗概）琵琶湖畔の麗かなる日、渡し舟よりも釣り舟に便船することそ與あれと、漁翁の釣船を呼びとめて竹生嶋明神に參詣せし或る臣下あり、翁道知べせんとて辯才天の社へ導き、此島の女人禁制の謂れなきを說き、共に舟に在りし女も是よ和して疑を解き、扨て我は人間にあらずとて社壇の内へ消へ去り翁も我は此海の主そとて水中に没し去りぬ。幾くもなく辯才天出現し給ひて舞樂を奏し給ふうち、湖面俄よ波荒れて龍神現れ、光り耀く金銀珠玉を夥しく捧げ來りて臣下に與へし後、佛の誓願は固と衆生濟度に在れば、或時は此宮の天女と現じて人々の祈願を聽き、或時は又龍神となりて國土を鎭め給ふ旨を示し給ひぬ。

シテ　老翁
ツレ　女
後シテ　龍神
後ツレ　辨才天
ワキ　臣下
ワキツレ　従者二人
所　近江國竹生嶋
季　春

竹生嶋

わき上　竹生嶋まうでと思へ
弓矢　竹生嶋の
ばん　わき　抑ゲニ今は仕へ奉る君下也
地上　江州竹生嶋の明神は昊神なれば
産は祥ふ時度君は法服を申唯今竹
生嶋は来詣仕る　わき上　ツレ　ヤ　只の宮や河原乃

流きて来早き（歩）名を老野の水ぞ
月影しぬ清代よ相坂此関乃高野を
ふし拝み山まへ迫き志賀此里浦の
浦ふを笑ふ沖（わき）の鳥ぞ袖ふ見
八早鳴の浦よ笑て永あ来を泊船
よ来浦こを泳めうまるまて（つまき）ぬ見べ

うゆ（上）（セイ）（サシて）面白や此八弥生の半なれば
波もうらふ海の面（つまき）（上）霞ふ見れる船
朗（セイ）（サシて）長閑よ通ふ乃乃うき葉と
あきんられ（サシて）上見ハ此浦里よ住別て船着
軍ぶ鱗の（つま）数を法くして身ひとつをたも
けやまると俗人此塵も波習よ明くれて

世を渡る我を招うられよしく同じ
業なりし世ふまえを海の名所
多き数ふ浦山うけて泳むれば
志ゞの松花園むらしるかゝの山櫻
乃入江乃船よぞひいざまぎよせてとと
いきん〳〵わき詞いろに芦成船よ俵船中

そう して芦ハ山田矢走の渡し永ゝてもな
しゝ乃読少へ此まれ的永ゝて山鳥を わきまなな
たゝ色的永と見てあきぶとり俵船ハ中せ
芦ハ始て竹生島参詣の若こ 誓の船よ
安べき西 寂彼詣ハ吾地ゝて 歩ゝ宮
び陸ふ人をいなとゝ中せバ沖ゝ出ゝまもちゞひ

又ハ神慮も量りがたし さらバ相舟を乗らせん

ワキ 嬉しやさて誓の船 法乃力と覚へたり

シテ けふハ殊更長閑にて 心にかゝる風もなし

同 名こそさゞ波や志賀の浦にお立ちあるは都人か いたはしや御舟に召して浦〻を詠め給へや 所ハ海乃上

国ハ近江乃江に近き山〻の春なれや 花ハさながら白雪の降るか残るか時知らぬ 山ハ都の富士なれや 猶冴えかへる春の日に 比良の嶺おろし吹くとても 沖漕ぐ舟ハよも尽きじ 旅の習ひの思ハずも 雲井のよそに見し人も 同じ舟に馴れ

夜浦を隔て行程より竹生島も見へて
里やして緑樹陰森づんで奥深のぶ
海岸しきあり月海よりうんでい光
色波を乾かす面白の浦北もしきや
して赤ゲ岩てに揚里ん沖中に竹
生島へ出船へ乗りに出ん

わき
波〳〵ば出船中さうぞ波まてに成て浦
入り入へ高ふ〳〵見て竹生島北の神よ
て出入り入へ紙に出錦に入へ扇出見るゆ
竹生島の明神まて出陸ひとるゆ姫
しぎ女神堂へ女人禁制の中に不
何迷見成女人に乗れてひそしてぬん

事ハ唯知ぬ人の申事にてこそ候へ忝
なくもくしやう如来ごさいたんにて
くわうだいむへんなれバ殊更女人こそ参り
ふべけれ　なふ事ともなき摂を　弁
才天ハ女体にて其神徳もあらた
なる天女と現じおはしませバ女人とて

隔なし只知ぬ人の詞也　曲　かく清然縁を
おこして正覚年久し師子頬王の古よ
り利生更に怠らず實にも類ひ
乃荒磯浦乃松陰を便りによする海士
小舟家ハ人間にあらざれバ社壇の扉
押開き神殿に入せ給ひなれバ翁ハ水

中より入り日見しが白波の立回り我も共海
乃ゑぞといひ捨て又波より入せ給ひ
雷序 中入
同上 弓
出羽 神殿頻より鳴動して 羽黒 光雲晴て山
の端迄なくなくて 彩雲 ふ 五雲 さよ
天女 我ハ是此嶋より住で 神を敬ひ是迄なる
舞ず天とハ家事也 同上 生 時 唐 空 不 者
樂吟へ 地 花 落下る 春 比 叡 の 月 よ
輝く乙女比 枝 花ぐ色 面白や 上 歌 拍
乃舞樂色 時 色て 歩 月を頭く海づ
らよ 涙 風 頻 小 鳴 動して下界の 弱 神
上
彩 雲 了り 早 笛 地 上 歌 神 波 より 出 現して 地
光も加やく金銀珠玉 我 の 婦 人 よ

はくぐるをしき有難りなる奇特なる
して中より衆生海度の誓願ごと
れば式ハ天女の加こちを現じ乃縁の
流生ハ法形を叶へ又ハ下劣化形神
となつて國土をまもる誓をあらハし天
女高中に入せ給へば竜神ハ則湖水

よ飛行しそ涙を滴ち水を起して
天地よむらぐ諸大蛇乃加こち天地
よむらぐる大蛇のりこちハ龍宮ハ花
でぞ入よける

374
52

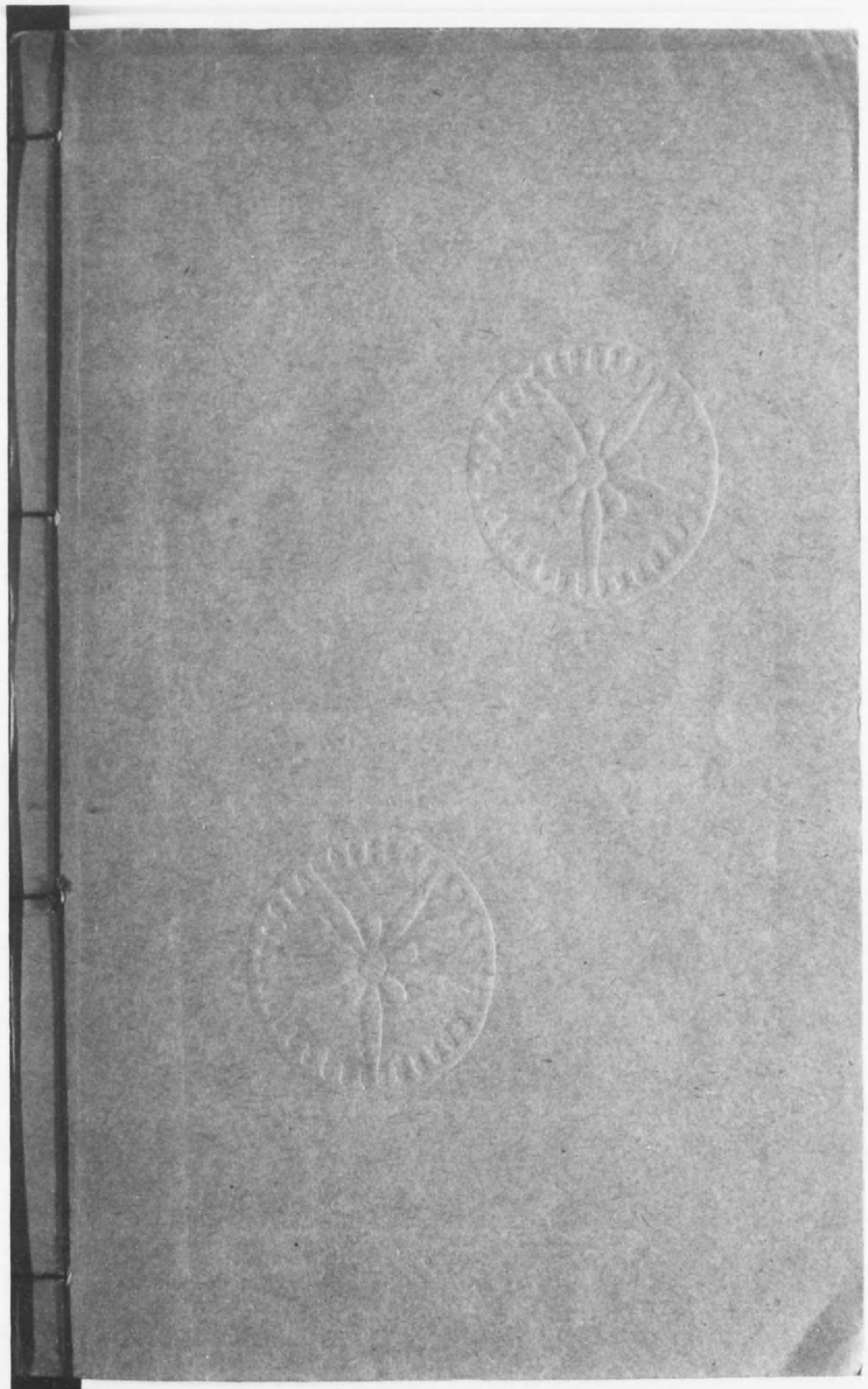
昭和十二年六月廿五日印刷
昭和十二年六月三十日發行

定價金五拾錢

著作者　東京市下谷區上野櫻木町四十八番地　寶生新

發行兼印刷者　東京市京橋區銀座西六丁目三番地　江島伊兵衛

發行所　下掛寶生流謠本刊行會

著作權所有

終